

7月 同和問題啓発強調月間

なるほど人権セミナー



7月の「同和問題啓発強調月間」に合わせ、町

民交流センター「いこつと」で「なるほど人権セミナー」を開催しました。

全3回の講座で計260人以上の皆さまにお越しいただき、盛況のうちに

終わることができました。今回は全講座の内容と参加者の声をご紹介します。

「感情が生まれること」「相手を尊重することで差別をなくしていきたい」



参加者の声

「福祉問題やさまざまな人権課題を学び続けることの大切さを知りました。人権課題に対して、自分事としてかかわっていききたいです」

(30代女性)

舞いを交えながら、一人芝居について講話いただきました。

「学ぶことで変わる」という言葉が心に残りました。正しく学び、真実をみることが大事。子ども

たちに真実を正しく伝えたいと思います」

(40代女性)

第2回 7月14日(木)

人権問題の解決に向けて私にできること

南筑後教育事務所

人権・同和教育室

主任指導主事 龍寿利さん

今まではあまり触れられなかった、ホームレス問題について講話いただきました。

「人は出会いがなくなったとき、心がねじれてしまふ。大事な人とのつながりが人を立ち上がらせる」「人が見えなくなることは恐ろしいこと。敵と認識した瞬間に、つながりが消えてしまう」



参加者の声

「時代や物事を強者の論理で見極めると、必ず弱者が生まれます。絆を大切に、今後行動していきたいです」

(40代男性)

「ホームレスについて初めて深く考えました。自分のふとした行動、言葉が人を傷つけることを心に刻み、毎日生活したいと思えます」

(20代男性)

第3回 7月20日(金)

人権が守られるまちづくりをめざして差別をなくす心の醸成

福岡県講師団講師

大久保博治さん

長い行政職の経験に基づき、同和問題の歴史と現状について講話いただきました。

「心の中に偏見があれば、差別意識が生まれる」「差別をなくすには知識だけでなく、行動も必要」



参加者の声

「一人の百歩より百人の一步が大切」という言葉を胸に、自分の意識を改革していきたいです」

(30代女性)

「なんの根拠もない差別が今もある現状を知り、無知の自分が恥ずかしくなりました。差別をなくす側にいたいと思います」

(20代女性)

10月11日は「ヒューマンアカルディアひろかわセミナー」、12月8日は「ひろか和の集い」を開催する予定です。皆さまの参加をお待ちしています。

同和問題啓発強調月間 教育委員会事務局

人権・同和教育係

☎0943・32・0093

(内線313)

広川町に残る城と館跡

川瀬城と矢賀部氏 その1

資料が乏しい川瀬城

現在の広川町域にあった城館で、資料が乏しく詳細が分かっていないのが「川瀬城」です。

○川瀬村城跡

縦十二間・横十間・北面也。

今按、大庄屋宅ヨリ(北西)戌亥

二町計、牟礼村ノ内也

蒲池氏ノ臣、矢賀部大学居之(筑後将士軍談)

○川瀬村古城

長拾二間横拾間 大手口北向。

川瀬村庄屋、唯今居申屋敷より三拾間。右之城主ハ、蒲池殿家来矢賀部大学と申者之由傳ル、時代不知。(筑後久留米領式拾万石郡中古城覚書)

○館屋敷

但、山下の城主蒲池兵庫頭鎮運之仕臣、矢賀部大学国廣居住之館と申傳

候。

只今は百姓屋敷罷成候。

尤矢賀部氏は、当荘内にて、知行八十餘町にて御座候由申傳候。

川瀬村庄屋幸八。(社寺并古城古墳等書付)

○寺の巽(東南)に古城跡あり。これ矢賀部氏代々の旧館なり(西念寺旧記)

などが川瀬城について記されたもので、その内容に大きな違いはありません。

大聖寺背後の山が城跡

川瀬城があったのは大聖寺背後の山で、現在の牟礼茶屋区(かつての牟礼村)に属します。

以前紹介した『筑後将士軍談』には、「大庄屋宅より戌亥(西)に2町(220メートル程)とあります。川瀬組大庄屋の屋敷は、現在の川瀬区公

民館の南側にあったといわれることから、方角と距離から場所を推定することができそうです。

「寺社并古城古墳等書付」で庄屋幸八という館屋敷や、「西念寺旧記」にある古城跡は、現在は城屋敷という呼び名で残っていて、常居の館があったと考えてよいでしょう。

矢賀部氏とは

「西念寺旧記」には、矢賀部氏ハ山下数代ノ功臣ニテ、実ハ蒲池同姓ノ支流ナリ、元祖矢賀部筑前守藤原久盛、其嫡子常陸介鑑典、其嫡嗣大学国広ト号ス云々

とあります。さらなる証拠を探したところ、「横溝六郎遺文集」という古文書が見つかりました。これによると筑前守久盛は、蒲池筑後守治久の三男ながら庶子(正妻でない女性から生まれた子)であったため、家臣の矢賀部氏のもとで育てられたとあります。また、山下城主

蒲池親広と兄弟であるため、その相談役として広川に100町を受領し、川瀬村に館所を構えて居住した後、名前を十郎九郎久興と改めたといえます。

蒲池氏は永正(1504~1520)年中に豊後大友氏の命を受け、柳川城を拠点とする下蒲池と、上妻郡山下城を拠点とする上蒲池に分かれます。矢賀部氏の川瀬城は、後者の上蒲池山下城に属する拠点として構えたことが分かりました。約410年前に遡り、その起源を求めることができそうです。(続く)

(広川町郷土史研会)



川瀬城を望む
城跡は大聖寺背後の山頂部にあったといわれる

広川町古墳資料館だより

縄文時代の「土偶(どぐう)」が注目されています。

出土数約1万8千点のうち、大半は東日本の遺跡からのものです。破片で出土するものが多い中、時期を推定することができるとして指定されています。

土偶のほとんどは女性の姿を表し、かたちやデザインはさまざまです。自然崇拜や生命の再生、病氣治癒を願うものと考えられています。最近では精霊を具象化したものという説もあります。いづれにしても、石人を見慣れた私たちにとって、魅力的な造形であることに違いありません。



→青森県八戸市風張遺跡の合掌土偶(考古学の世界①)ぎょうせい、1993年